

# 産柿 山形県内 女子高生らが商品開発 お菓子で認知度アップへ

山形県特産の庄内柿(平市)。内閣府の「地方の元気核無」を素材にした菓子の再生事業」の採択を受けて試食イベントが、東京・銀座の同県アンテナショップ「おいしい山形ブラザ」で開催された。

主催は、東京都市大学(東京都世田谷区)および酒田観光物産協会(同県酒田)。

市。内閣府の「地方の元気核無」を素材にした菓子の再生事業」の採択を受けて取り組みをスタート。庄内柿は上品な甘さが特徴で、県内では親しまれているが、全国的な認知度は低い。そのため、菓子という加工品によってPRと販路拡大をめざすもの。



商品開発には、東京都市大学の女子学生七人と、東

買物客らに自信作を手渡して庄内柿をアピールした

京都立晴海総合高等学校(東京都中央区)の女子生徒一人が協力。既存商品を調査したうえ、学校でおよつとして食べたいお菓子”をイメージし、現地の食品メーカー二社に提案した。その後、学生らを使った試食会が重ねられ、最終的に二四品が完成した。

イベントでは、買い物客らに食べたい二品を選んでもらい、実際に試食をして

好みかどうかを聞くというもの。果肉がたっぷり入った水まんじゅう「柿の霰」や、柿クリームを挟んだ「庄内柿ゴフレット」などが人気を博していた。

「消費マーケットに強い影響力を持つ女子高生・女子大生の目線で開発した商品が広まり、庄内柿産業の振興につながることを期待している」と東京都市大学の小松史郎教授。都立晴海総合高等学校の千葉吉裕教諭も今回の仕掛けについて、「若年層に食べる機会を与え、将来のマーケットを確保する意味でも有意義なこと」と話す。

イベントで得た消費者ニーズは現地にフィードバックされ、更なる改良に役立てる。各商品は、今秋にも販売される予定。

無断転載禁止  
著作権は農経新聞に帰属します  
転載承認済

東京都市大学グループ  
学校法人 **五島育英会**